

| | | | | |
|-----|--|----------------------------------|------------------------|--------|
| 名 称 | | 平成 29 年度 第2回 ほどがや市民活動センター評議会 議事録 | | |
| 日 時 | | 平成 30 年 2 月 5 日 (月) 14:00~16:00 | | |
| 場 所 | | ほどがや市民活動センター(アワーズ) ミーティングスペース | | |
| 出席者 | 評議会委員 | 浅井 経子 委員 | (八洲学園大学 生涯学習学部 教授) | |
| | | 有元 典史 委員 | (横浜国立大学 教育学部 教授) | |
| | | 小倉 敬子 委員 | ((公財)かわさき市民活動センター 理事長) | |
| | | 近藤 博昭 委員 | (横浜商工会議所西部支部 支部委員) | |
| | | 畑尻 明 委員 | (保土ヶ谷区連合町内会長連絡会 会長) | |
| | 保土ヶ谷区役所 | 地域振興課 | 地域振興課長 | 大山 敏彦 |
| | | 〃 | 生涯学習支援係長 | 鈴木 明彦 |
| | | 〃 | 生涯学習支援係 | 西村 佳那子 |
| | | 〃 | 生涯学習支援係 | 西戸 達哉 |
| | | 〃 | 生涯学習支援係 | 平山 啓子 |
| | 協働運営会議 | 代表 | 小林 由美子 | |
| | 管理運営業務 受託者 特定非営利活動法 人 横浜市民アクト | 理事長 | 福島 伸枝 | |
| | | 監事 | 佐藤 洋志 | |
| | | ほどがや市民活動センター | センター長 吉弘 初枝 | |
| | | 同 職員 | 伊勢 俊枝 | |
| | | 同 職員 | 三浦 康子 | |
| | | 同 職員 | 金子 志穂 | |

| | |
|-----|---|
| 議 題 | 1 平成 29 年度 ほどがや市民活動センターの運営及び業務について 2 ほどがや市民活動センター 協働運営会議から 3 評価シート記入 4 その他 意見交換 |
| 資 料 | 1 平成 29 年度 ほどがや市民活動センター 評議会委員名簿 2 平成 29 年度 ほどがや市民活動センター 事業ならびに利用状況概要報告 3 ほどがや市民活動センター 協働運営会議 下期事業報告 |

* 大山地域振興課長の開会の挨拶に続き、評議会委員 5 名参加により会議成立を報告。

* 平成 29 年度第 2 回評議会議事録をほどがや市民活動センター ホームページに掲載することについて出席委員全員の了承を得る。

* 平成 28 年度第 1 回評議会時選出に基づき、議長は小倉委員、副議長は浅井委員が務める。

議題 1 平成 29 年度 ほどがや市民活動センターの運営及び業務について

○保土ヶ谷区役所との共催事業についてはセンター職員と区役所担当職員と一緒に説明を行う。
資料に基づき事業ならびに利用・相談件数について説明及び報告。

【委員からの質問および意見と回答】

『利用者交流会(協働運営会議と共催)』について

(意見)交流会の一例として、かわさき市民活動センターで開催している「ごえんカフェ」を紹介する。市民活動に携わる誰が来てもいい、プログラムは作らず、自由にしゃべってもらう場として実施している。参加団体の名簿を配布し、自由に情報交換をする。初めての参加や、どの団体とつながればいいのかわからない参加者には、職員がコーディネートをする。60～70の団体が集まる場となっている。年1回の実施から現在は年2,3回実施。税理士や行政書士による無料相談会も同時開催。

(回答)現在の利用者交流会は、2部制で開催し、会の後半で団体同士が交流する取り組みをしている。今後に向けて参考にしたい。

『ほどがやサンプラプロジェクト』について

(意見)地域でリサイクル推進員を務めていることもあり、フードドライブの取り組みについて、関心がある。無駄を省き、ごみを出さないフードドライブについても大々的に取り組んでもらいたい。

(回答)今年度はフードドライブを知ってもらう機会としてよかったと考えている。継続していきたい。

(意見)気軽に参加できるボランティア活動、地道な活動は大切である。今後いろんな活動メニューも必要では。

(回答)よこはまサンプラプロジェクトの実践例で、企業が中心となって児童養護施設などへ訪問するボランティア活動もある。そちらとも連携しているので、今後活動の展開として考えていく。まずは「だれでもできるボランティア」ということで、和田町、星川を中心に清掃活動を実施した。区内いろんな地域でも取り組めるよう、無理のないところで進めていく。学生アルバイトとともに企画、実施し、若い参加者も多くあった。

(意見)グリーンバードというゴミ拾いの活動をしている NPO の事例も参考になるのではないかな。年1回でなく定期開催にすれば小学生も気軽に参加できる。お揃いのゼッケンのようなものを着ける仕掛けをするとメディア等で取り上げられる可能性も広がるし、企業等の協賛を得やすくなり、多くの人に参加するイベントに成長する可能性もある。

『地域と学校の連携』について

(意見)25年ほど前にPTA会長を務めた。当時は地域の協力を得ることが非常に難しかった。学校地域コーディネーターの取り組みは大切であり、地域の人に関心を持ってもらいたい。活動のサポートはできる限りしたい。

※学校地域コーディネーターの配置は、区内28校中14校。

(質問)学校地域コーディネーターは課題を抱えているか。交流会は課題解決につながったか。

(回答)1人配置のコーディネーターは課題を抱えがちな傾向にあるが、現在多くの学校でコーディネーターズとして複数人配置を進めている。また学校長や担当教師の異動があると、自分たちの活動がなかなか理解してもらえない現状があると聞く。今回の交流会では、先輩のコーディネーターから職員会議の場で活動報告の時間をもらった事例など、具体的なアドバイスもあった。

(意見)コーディネーターが1人で課題を抱える状況をなくしてほしい。

『はぐくみプロジェクト』について

(質問)各運営委員会実施講座の参加人数や感想、傾向など知りたい。

(回答)各講座募集定員に到達している。参加者の満足度も高く、実施内容も目的に沿ったものとなっている。ある講座では、4回の連続講座だったが、各回個別の内容となったため、4回通しての参加者が少ない傾向はあった。また全講座の運営委員に声をかけ連絡会を開催し約20名の参加があった。運営に関してアドバイスし合うなど運営委員どうし知恵を寄せ合う場となっている。

(意見)活動が途切れないような仕掛けが必要だと思う。講座参加者が次は自分が、と意識できるような仕掛けを用意し、リレーのように入れ替わりながら、運営側の層が厚くなっていくことを目指して継続できればいいのではないかと。

(回答)はぐくみ塾の活動報告の場として「はぐくみカフェ」を3月12日に実施する。昨年度は80名の参加があった。今年度は、各講座運営委員もカフェの運営に携わり、1年間に経験した実践報告をする機会となる。

(意見)他区では、はぐくみ塾を先駆事例として捉えている。

『地域まちづくりプロジェクト「ほどがや楽考」への参画』について

(質問)この事業は行政主導のものか。新プロジェクトということだが、講座終了後の展開は考えているか。

(回答)担当部署は区政推進課。今年度講座参加者は次年度参加者に対し、OBのような立場で関わるか等、次年度に向けて検討中。

(意見)2月17日にクロスミーティングを開催する。すでに地域で活動している方から、これから活動を始めようとしている講座参加者にアドバイスなど意見交換する場だと聞いている。

(質問)区政推進課が担当ということは、市民活動の広がりにも主眼を置くより、地域コミュニティの構築へシフトするのではないかと。

(回答)地縁団体の支援が中心であり、市民活動団体支援の事業とは異なる。地域の核となる人材をつくることを目的としている。

(質問)職員と一般参加者が共に学んでいることは興味深い。この事業をどう考え、どう位置付けているのか。

(回答)第1回評議会でご指導いただいたエリア別の課題解決につながる場として考えて、行政のエリア担当者も共に学ぶ場と位置付けている。センターの役割として、テーマに主眼を置き、エリアごとの課題、福祉分野等、区分けすることは難しいが、幅広い連携を視野に参画している。

(意見)地域包括支援センターに生活支援コーディネーターが配置されているが、どういことを進めていくかわかりにくい。今までの事例では対応しきれないケースも出てくると思うので、情報を共有し、いろんな関わり方を想定する必要がある。

『区内施設間連携促進事業(区共催)地域デザインセミナー』について

(意見)この事業はセンターだけで実施するのは難しい。区役所から各施設に呼び掛けることで職員が参加できる。今回の講座でのつながりが途切れない取り組みが必要。事業報告書は視覚で内容が把握でき、とても良い。

『街の学習応援隊紹介事業「ちょっと体験講座」』について

(意見)12講座の実施ということだが、講座内容をチラシ1枚で案内するのは無理があり、伝わらない。人に関心を持ってもらえるよう、直近のものを掲載し、段階的にPRするなど工夫が必要。

(質問)応援隊から依頼がないことに対して問い合わせ等あるか。

(回答)そういった問い合わせは聞かないが、普段からPRの機会を積極的に活用していくよう案内している。

(意見)応援隊として活動したい人は随時受け入れる形も大切。

『まなぶん祭りへの参画(共催)』について

(意見)いろいろな活動、人々が参加していてすばらしい。だが、会場が狭いのではないか。ステージプログラム実施中に隣の別のプログラム参加者の声が丸々聞こえる状況だった。公会堂や水道会館に会場協力を要請してはどうか。せっかく多くの人が集う機会なのに、落ち着かないのはもったいない。

また、近隣施設とイベント日程が重なっているの、情報交換をし、調整してもらいたい。

(意見)区役所が共催ということなら、会場の優先予約が可能になるのではないか。センターは休憩所等で使いつつ、大規模に開催してもよいのではないか。来てくれる人のことを考え、会場の検討をしては。

(回答)実行委員会からは、センターでの開催を望む声が多い。今後検討していく。

議題 2 ほ도가や市民活動センター 協働運営会議から

(意見)協働運営会議のあり方をもう一度考え直す時かもしれない。交流の事業を実施するだけでなく、センターを運営するパートナーとしてどう取り組むか考える必要があるのでは、と感じている。

議題(3)評価シート記入

議題(4)その他 意見交換

議題(3)その他 意見・質問

- ・10年経ち、運営内容が充実してきたことに合わせ、建物も充実していくよう考えてもらいたい。修繕が必要な箇所も増えてきていると感じている。区が所有している施設なので、大きい修繕等は区役所の責任で進めてもらいたい。
- ・評議会に参加し、いろいろな意味で勉強させてもらっている。市民活動に関わっている人が大変多くいる。まだまだ知らないことも多いが、保土ヶ谷の歴史の古い写真等、活用できるものも所有しているので、協力できればと思う。
- ・区で目指している「いつまでも住み続けたいまち ほ도가や」実現のために、できることは取り組んでいきたい。まずは自分が面白いと思って取り組むことが大切。
- ・区内には大学もある。学生や教員とも連携できればいい。
- ・センターとして成長している。評議会の方が勉強になる。行政では思いつかない視点での事業展開もよい。
- ・学び合う関係として評議会も継続していきたい。
- ・今後ますます地域のことは地域で考え、課題解決に取り組む必要性に迫られる。福祉と生涯学習、市民活動は区切れない。担い手育成も課題である。